

ぶらっとサロン通信 令和2年12月号



報告:有楽斎

毎週火曜日の午後1時過ぎから午後4時半ごろまで、朝日2丁目集会所で「健康麻雀ミーティング」をワイワイガヤガヤとやっていたのですが、新型コロナウイルス感染拡大防止の為、3月10日から自粛し**現在休局中**です。

江戸の粋 ツバキを愛でる。ツバキで遊ぶ

『百椿図』に見るツバキの遊び方『百椿図』伝 狩野山楽筆 2巻、17世紀、根津美術館蔵、茂木克己氏贈
変化に富んだ100を超えるツバキの希少品種を描いた巻物。漆や金箔などが施された器や膳、文箱、扇などを花器に見立てた斬新なアレンジメントが見られる。花のそばには大名、皇族、公家、僧侶、儒者、歌人、連歌師、俳人などによる賛が添えられている。

NHK 趣味の園芸 2020.1月号 園芸研究家前田 悟(名古屋椿協会長)



ツバキは花がポトリと落ちることから武家に嫌われたといわれますが、実際にはそんなことはありません。

ツバキの花は落ちたり、切ったりしたあとも花弁の光沢が失われずに日もちし、長く楽しむことができます。

だからこそ、『百椿図』のような多様な遊びが可能だったのでしょう。

当時の大名、皇族、公家、僧侶、歌人などの上層特権階級の人々がいかにツバキを愛し、贅を尽くして遊んでいたかが、手に取るようにわかります。

NHK 趣味の園芸 2020.1月号より



椿名称「いさはや」賛者「水戸光圀」



「さよひめ」四辻李継「やぐら」竹屋光長



「紅散椿」 林鷲峰

器ではなく、こうしたチリ取りと羽箒と見事にマッチングさせその美を表現している二クさも江戸時代の余裕のある絵画である証(右図)